

お問い合わせいただいた相談内容と件数

平成 27 年 4 月～平成 30 年 11 月

相談内容	件数
在宅医療に関する基本情報の提供や疑問への対応	61
在宅医療支援を行う医療機関に関すること	37
かかりつけ医に関すること	18
医療従事者の負担軽減に関すること	13
医療関係者と介護関係者の連携に関すること	26

お問い合わせいただいた相談より抜粋

他市急性期病院の退院調整看護師からの相談



豊川市在住の入院患者が、退院後、在宅に戻られることが決まりました。在宅療養では、緩和ケアが必要な段階です。今後の支援を依頼したいので、訪問診療をしてくれる医師の紹介をお願いします。

病状・家の所在地を確認させていただき、圏域別地区において、訪問診療をしている医療機関をご紹介します。また、医療機関の訪問診療の実績を、一部情報提供します。



娘から父親についての相談



父親は、呼吸器をつけて入院中です。呼吸器をつけたままで、在宅に帰ることは可能ですか。母親と二人で、在宅で見ていくことはできますか。

まずは、家に帰りたいと思っていることを、医師や看護師に相談してください。呼吸器をつけて、在宅で見ていくことは可能です。医師の訪問診療と訪問看護、必要であれば、ヘルパーや訪問リハビリなど、状態によってサービスを受けることができますので、退院の方向が決まれば、在宅に移行するための情報提供やサービスの説明が受けられます。



妻から夫についての相談



夫は、高血圧で、市民病院に1回/月通院しています。薬をもらって帰ると午後2時を過ぎ、通院の大変さを感じるようになりました。でも、開業医に移りたいとは申し訳なく言えません。

市民病院は、主に、入院治療を要する急性期の患者を受け入れる役割を持っています。定期的な通院でよい、落ち着いた状態の患者は、開業医に紹介することがルールになっており、医師に相談をすれば、快く紹介状を書いてくれます。また、開業医は、必要と判断すれば、間歇的に市民病院で検査をしてもらえるように調整を図ってくれます。



ご本人からの相談



これまで、大きな病気をしたことはありません。内科にかかることもなかったので、かかりつけ医を持っていません。まだ身の回りのことはできていますが、何時動けなくなるか不安です。長くお世話になるかかりつけ医を、どのように見つけたらいいか教えてください。

家に近く、総合的に診てくれる医療機関をご紹介します。相性の合う医師かどうかは、実際に会って話してみないと分からないので、風邪をひいた時や、健診の目的で受診をしてみて、相談がしやすい医師であれば、かかりつけ医として決めてもらうようにします。



他市の急性期病院退院調整看護師からの相談



蜂に関わる仕事をしていて、ショック症状で入院治療を受けていた方が、症状が改善し退院されます。今後、緊急時の自己注射として、エピペン（蜂に刺された直後に自己注射することでショックを予防する）の取り扱いをマスターしていただき退院となります。自宅近くで、継続支援をしてくれる開業医を紹介してください。

かかりつけ医を持っていないかどうか確認します。あれば、そのかかりつけ医が同注射を扱っているか調べます。かかりつけ医がなければ、近隣で、エピペンを扱っている開業医を紹介します。



同居している嫁から姑についての相談



姑は、数年前に脳梗塞で入院し、それ以来近隣の医院に3ヶ月に1回程度の通院をしています。1ヶ月前程からふらつきが目立ちます。昼間は1人でのいるので、転倒するのではないかと心配しています。

予約日でなくても、受診をしてふらつきについて医師に相談をしましょう。ふらつきの改善が見られないようなら、介護認定の申請によりサービスを受けられるように、高齢者相談センターの職員に同席してもらい、申請の仕方をアドバイスします。

